

研究に関する情報公開について

研究課題	鏡視下手根管開放術後1年における 基準値達成に必要な術前 SWT スコアカットオフ値と成績不良因子の検討
研究機関の名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科, 整形外科
研究責任者	清永健治
研究対象者	2016年4月から2023年8月まで当院でCTSに対し鏡視下手根管開放術を行い、術前から術後1年まで経過観察可能である症例を対象とします。
研究の目的・意義	<p>Semmes-Weinstein monofilament test (以下SWT) は手根管症候群を始めとする絞扼性末梢神経障害における代表的評価法¹⁾です。当院では2016年4月からの診療報酬の改定に伴い、末梢神経障害患者に対する精密知覚機能検査(以下感覚検査)の算定が可能となったことを受け、主に手根管症候群(以下CTS)や肘部管症候群の患者様に対し、術前から術後1年までの期間、SWテストや痺れの評価、筋力評価など評価を行い術後1年までフォローアップを続けています。SWテストについては、結果を点数化し、33点を上限とし減少すればするほど正常値に近づき、11点以下を日常生活での不自由さがほぼ消失する「基準値」として採用しています。</p> <p>これまで私たちは手根管症候群の患者様のSWテストの結果を点数化し様々な角度から研究解析を行い知見を発表してきました。その中で昨年度の研究結果より、術後半年での基準値達成に必要な術前のSWテストの点数のカットオフ値を明らかにしました。そこで今回私たちは、術後調査期間を1年まで範囲を広げ、術後1年での基準値達成の有無について、術前のSWテストの点数に焦点を当てカットオフ値を検討することとしました。また、術後1年時点でSWテストの点数が基準値に達しなかった患者様における要因についても調べ、基準値達成の有無が、手根管症候群の回復過程にどのような関係性があるのかを明らかにしていこうと考えています。この研究を行うことで、手根管症候群における手術前後の評価の精度を上げていくことで、リハビリテーション技術の向上やエビデンス(根拠)の構築に繋がり、患者様の日常生活活動や生活の質の向上に繋げるための一助となることが出来ると思います。</p>
研究方法	2016年4月から2023年8月まで当院で手根管症候群に対し鏡視下手根管開放術を行い、術前から術後1年まで経過観察可能である患者様を対象とします。診療録から情報を抽出し統計解析を行います。本研究では患者様から新たな情報の提供は頂きません。
研究機関	石橋総合病院倫理委員会の承認を受けてから2024年7月末まで。
研究に使用する情報	患者様の診療録より以下の情報を使用します。 術前、術後1年時点におけるSWテストの点数、年齢、性別、罹患側、術後1年でのvisual analog scale(痺れの評価)のデータ、術前検査での神経伝導速度検査のデータ。
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の資料などを閲覧または入手することが出来ますので、お申

研究に関する情報公開について

	し出ください。
個人情報の取り扱い	診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院 ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します。データは研究責任者がリハビリテーション部門内で厳重に保管します。新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管します。また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
研究組織名称	医療法人社団友志会石橋総合病院リハビリテーション科 清永健治（研究責任者）
問い合わせ先	【研究責任者】 医療法人社団友志会 石橋総合病院リハビリテーション科 清永 健治 〒329-0596 栃木県下野市下古山 1-15-4 電話：0285-53-1134